

イネ栽培試験について

1. 試験場所：秋田県大潟村
2. 試験協力者：斉藤農園（田圃 15ha を所持）
3. 使用した深層水調合液：

	深層水調合液の種類
籾の浸漬	未使用
育苗	深層水調合液（G型調合液）1,000倍希釈
田植え後	田圃用深層水調合液

4. 深層水調合液の使用内容及び水管理：

	試験区	対照区
品 種	あきたこまち	
育 苗	深層水調合液 1,000 倍液を月 3 回の割合で葉面散布。散布量は 1 回当たり 1～2mm。散布回数は対照区と同等。	既設の水を所定の方法により葉面散布。
田植え後	田圃面積：1.25ha 水嵩の管理は規定通り 5月：深層水調合液 12L を水口より添加 6月：深層水調合液 12L を水口より添加	既存の田圃 水嵩の管理は規定通り

5. 気象：田植え後と収穫前に台風が襲来。
6. 試験結果：草丈は各区 20 株についてサンプリングを行い平均値をだした。
試験区、対照区 1 は、田圃の中央部、対照区 2 は周辺部を抽出。

【生長】

	試験区 (中央部)	対照区 1 (中央部)	対照区 2 (周辺部)
籾の数	119.2	97.2	82.0
茎の数	22.5	19.3	15.0

試験区と対照区1の増収比較は、籾の数と茎の数より導き出す事が出来て、
 籾の増加率×茎の増加率（分げつ数）となるので、対照区1を100として
 籾の増加率=試験区籾の数（119.2粒）／対照区1籾の数（97.2粒）

$$=122.6\%$$

茎の増加率=試験区茎の数（22.5本）／対照区1茎の数（19.3本）

$$=116.6\%$$

コメの増産率=籾の増加率×茎の増加率

$$=122.6\% \times 116.6\%$$

$$=143.0\%$$

深層水調合液は、籾数、茎の増加（分げつ）を促し43%の増産となる。

【構造】

	試験区		対照区1		対照区2	
	草丈 (cm)	107.7	104.1	99.6	99.9	90.9
茎の数	22.5		19.3		15.0	
根の長さ (cm)	17.0		15.6		13.3	

稲ワラにおいても籾収量と同様、増加する。

草丈の対照区に対する試験区の割合は106.2%であり、茎の数の割合は同様に116.6%となるので、稲ワラ全量としては124%の増加となる。

根については109%の増加となった。上記の数値には毛根等については明記されていないが、沖縄県、熊本県での栽培試験では目視的に試験区が明確に発達していた。

【ストレス抵抗性】

栽培農家からの聞き取りであるが、稲熱病の発生が試験区で著しく少なかった。

【栄養素の含有量、特性】

項目	目標値	試験区	対照区
タンパク質	7.0%以下	8.1%	7.9%
アミロース	18.0%以下	20.3%	20.4%
脂肪酸度	16以下	10	12

※ JA 大瀧村米品質評価システムによる。

【食味品質】

項目	目標値	試験区	対照区
水分	14.5～15.5%	15.3%	15.5%
老化性	60%以下	83%	83%
良質粒	80%以上	85.0%	86.8%
未熟粒	10.0%以下	7.3%	6.6%
被害粒	5.0%以下	2.1%	1.7%
死米	5.0%以下	0.9%	1.6%
着色粒	0.0%以下	0.6%	1.2%
胴割粒	3.0%以下	4.1%	2.1%

※ JA 大潟村米品質評価システムによる。

以上